

# ボランティア活動報告書( 1 号)

記入日	2013年07月08日
区分	一般隊員
氏名	大山 達也 ( 24-4 )
派遣国	マラウイ
職種・指導科目	栄養士
派遣期間	2013年03月25日 ～ 2015年03月24日

## 報告書 1 号要約

私の任地であるKaronga District Hospitalで活動を開始してから2ヶ月が過ぎた。今回の1号報告書では以下の内容について述べる。

- 1、活動地域及び配属先の概要
- 2、ボランティアが所属する部署の概要
- 3、配属先のニーズ
- 4、活動計画準備状況
- 5、受入国の印象

### 1. 活動地域及び配属先の概要

#### (1)活動地域の概要

私の活動地域は首都から北へ約600kmの位置にあるカロンガ県で、首都へあがる際に2日を要する。配属先はKaronga District Hospital。タウンから約3km離れたところにあり、病床数は約280床とあるが、平均で220名ほどの患者が入院している。

#### (2)配属先の事業内容

一般外来（内科、外科、歯科、眼科、皮膚科）、MCH（Mother and Child Health）、ART（Anti-Retroviral-Therapy）、VCT（Voluntary Counseling and HIV Testing）、Under-5clinicを行っている。

入院病棟は小児、妊産婦、男性、女性病棟で分かれており、最大280床の規模である。

#### (3)配属先の援助受け入れ実績

カロンガ病院に配属されているボランティアは、現在私ひとりであるが、過去に前任の栄養士、その他に看護師、助産師、臨床検査技師を受け入れたことがある。

### 2. ボランティアが所属する部署の概要

#### (1)ボランティアが所属する部署の事業内容及び課題

現在、配膳課に所属し、Catering Officerがカウンターパートとなって共に活動している。配膳課としては主に、食事の提供、食材の管理、入院患者のアセスメントを行っている。しかし、配膳課は本来、食事の提供が業務であってアセスメントは看護課がすべきことではないかと思う。配膳課の予算が少ない影響もあって、食材が慢性的に不足しているため、栄養のバランスがとれた食事を患者に提供することは現在困難となっている。

## (2)同僚の人数及び技術レベル

同僚はCatering Officer1名、Store staff1名、Catering Assistsnt4名、Cook8名、Kitchen Attendant10名の計24名。カウンターパートは疾患や栄養、5Sに関する知識が豊富で彼に任せていても業務は行えるが、その他のスタッフは栄養や衛生、調理に関する知識が十分とは言えない。そのため、カウンターパートが出張などで病院を離れるときは、ほとんど何も進まない。スタッフの知識レベル向上がひとつの課題であるといえる。

## 3. 配属先のニーズ

### (1)ボランティアに対して期待している内容

病院としては以下の業務を期待している。

- 1、入院患者のアセスメント、栄養面でのアドバイスや栄養指導（糖尿病を含む）。
- 2、5Sを中心とした病院のクオリティ向上。
- 3、子供の栄養失調予防。離乳食や栄養に関する情報の提供。

### (2)当初要請時のニーズからの変更点

特に変更点はなし。

要請の他にも、自分の目で見て問題と思うことは積極的に改善の提案をしている。よく話し合いながら協力して解決に取り組んでいくように心がけていく。

## 4. 活動計画準備状況

### (1)キッチン

前任者の活動の成果もあってキッチンの5Sは徹底されている。毎週金曜日にスタッフミーティングを行っているので、そこで勉強会を行い、少しずつスタッフ全体の知識向上をはかる。

### (2)病棟

栄養指導を期待されているが、その前にアセスメントを通して患者の情報をとる大切さを伝えたいと思う。血液検査がほとんど行われていないため、身長、体重、BMI、MUACなど限られた情報しか得ることはできないが、栄養指導するうえで患者情報は必須である。

### (3)地域

ヘルスセンターの巡回に同行。その他、糖尿病患者の自宅訪問を行って、日常の食生活からの改善点の提案を開始した。この業務は私以外のスタッフは関わっていないため、私の帰国後は困難と予想されるが、出来る限り引継ぎをしたい。

### (4)課外

現在DADO(アグリカルチャー)のNutritionistやMarket Officerと協力して「Food Availability Calendar」を製作中である。マラウイでは季節の食材以外は入手困難なため、季節にあった栄養指導が必要と判断した。また、カロンガ県の中でも地域によって入手可能な作物は違い、価格も異なってくる。作物の季節と平均価格、これを基盤に地域に合った栄養指導媒体の作成を計画している。

## 5. 受入国の印象

アフリカ諸国が急速に発展しているという印象を持って日本を出国したが、マラウイは少し違った印象を受けた。

マラウイの食文化はバラエティーに欠けており、どこに行ってもほぼ決まったものしか提供されない。栄養士として食のバラエティーが少ないのは栄養の面でもあまりいいとは言えず、なにより飽きてしまう。任地カロンガはタンザニアに近いこともあり、マラウイ全土の中では比較的バラエティーが豊富である。

マラウイの人柄を観察していると以下のことがわかってきた。

#### 1、自分の生活に直結すること以外に興味はない

マラウイの人々が何か行動を起こすときはお金が絡むときや、何か自分の生活が向上する内容に限られる。日常の業務では仕事をしてもしなくても給料は変わらないので意欲を持って仕事をする人は稀である。

#### 2、限られた人に対するホスピタリティ

よく自宅に招待されて共に食事をするときがあるが、そのときのおもてなしがとても素晴らしい。僕を家族の一員として接してくれている感じが伝わってくる。しかし、他人に対しての対応はなんとも冷たい。病院での患者対応や、スーパーでの顧客対応を見ていると全くホスピタリティが感じられない。とても両極端である。